

職員アンケート評価 結果

よくできている:4点、できている:3点 あまりできていない:2点 できていない:1点 で数値化

領域	評価の観点	評価項目	NO	実践目標	2011/12/21	2012/12/20	比較
					評価	評価	
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	1	学校のHPや学年通信を通じて学校の情報を家庭や地域に情報発信し、学校への理解を推	3.33	3.39	↑
		学校評議員制度等を活用した学校運営の推	2	学校評議員会・PTA役員会・保護者会等で、意見を聴取し、学校運営に反映させる。	3.05	2.98	↓
		学校施設や教育活動の地域への開放	3	オープン・ハイスクール、コース説明会、公開授業を実施し、開かれた学校づくりを推進して	3.74	3.44	↓
	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	4	生徒指導方針を職員・生徒・保護者に示し、その方針を共通理解し、適切な生徒指導を推進	2.91	3.28	↑
		生徒の内面の理解を図る指導の工夫	5	個人面談を実施し、生徒の内面の理解を図る。	3.00	3.17	↑
		基本的生活習慣の確立	6	時間や校則を遵守させる。	2.29	2.78	↑
			7	交通安全教育を行い、登下校マナーを指導す	2.72	2.93	↑
	進路指導	進路指導体制の充実	8	3年間を見据えた計画を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施し、進路状況・結果について、進路指導部と各学年が連携し、分析・対	2.47	2.60	↑
		進路に対応した学力養成	9	早朝補習・放課後補習・長期休業中補習、小テスト等を実施し、必要な学力の向上を目指	2.98	3.02	↑
		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	10	外部講師による進路講演会を開催し、生徒の職業観・勤労観を高め、また「進路の手引き」等により、生徒・保護者に進路情報を提供し、進路意識を高める。	2.86	2.85	↓
	教職員の資質向上	実践的指導力の向上	11	研究授業を行うなど、指導内容や指導方法について創意工夫し、ていねいでわかりやすい授業に努める。	2.70	2.78	↑
		計画性を持った研修の実施	12	進路・教務・生徒指導等、学校の諸課題について、校内研修を計画的に行う。	2.67	2.85	↑
	危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定	13	危機管理マニュアルを作成し、内容を周知する。	2.62	2.57	↓
		家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	14	家庭・地域・関係機関との連携を密にし、必要な情報(不審者情報等)を共有し、対応策等を検討する。	2.69	2.74	↑
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	15	企業・大学・研究機関への訪問・交流やふれあい育児体験など、体験的な学習や問題解決的な学習を推進する。	2.93	3.04	↑	
	基礎基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定	16	入学時テスト等により、生徒の学力を把握し、各教科で評価基準を設定し、それに基づいた評価を行う。	2.52	2.87	↑
		基礎基本の定着	17	学習習慣を身につけさせ、基礎基本の定着を	2.14	2.34	↑
	総合的な学習の時間	18	教職員の協働体制の確立	2.39	2.75	↑	
	個に応じた学習指導の徹底	19	英語・数学等で習熟度別授業や少人数指導などを実施し、個に応じた指導を行い、評価方法についても工夫する。	2.98	3.19	↑	
	特別活動	20	自主的・実践的な活動の活性化	2.86	2.85	↓	
課題教育	防災・安全教育	21	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	2.98	2.73	↓	
	人権教育	22	人権教育推進体制への取り組み	2.90	2.88	↓	
	教育相談	23	教育相談体制の確立	3.10	3.33	↑	
	国際理解教育	24	交流事業の推進	2.98	3.08	↑	
	環境教育	よりよい環境の創造に向けた実践的態度の養成	25	ごみの分別や毎日の清掃活動・月例の大掃除を通して、校内美化に努めるとともに、環境問題を身近な問題としてとらえる態度の育成	2.79	2.87	↑
		地域貢献事業	26	体験活動の推進と地域への貢献	3.33	3.33	↓
	学校の個性化	特色ある教育課程の編成	27	類型や多様な選択科目を設定し、興味・関心に応じた特色ある教育課程を編成する。	3.00	3.00	→
		外部講師の活用	28	外部講師を活用した授業や講演を行い、生徒の多様な興味・関心に応え、発展的な学習活動を展開する。	2.83	3.06	↑
		文化・スポーツ活動の推進	29	部活動の加入を奨励し、部活動を活性化させる。	2.88	2.94	↑
		コースの充実	30	「科学と人間」コースを充実させるとともに、「人と環境類型」の推進を図る。	3.08	3.29	↑

平成24年度学校評価 生徒・保護者アンケート評価 比較

5段階評価 1:よくできている 2:ほぼできている 3:あまりできていない 4:全くできていない 5:わからない

「評価」は、回答のうち 1→4点、2→3点、3→2点、4→1点で換算し、平均値を示したものである。

NO.	項 目	H24		H23	
		生徒	保護者	生徒	保護者
1	学校のホームページ・学年通信などを通じて、学校の情報を知ることができる。	2.83	3.39	2.88	2.92
2	サマーフェスタ、オープン・ハイスクール、学校説明会、公開授業を実施し、開かれた学校づくりを推進している。	3.00	2.98	3.04	3.12
3	学校は個人面談を行い、悩みや相談に応じてくれる。	2.89	3.44	2.82	2.94
4	私は、時間や校則を守る。	3.17	3.28	3.20	3.07
5	私は、交通ルール、通学マナーを守る。	3.15	3.17	3.10	3.14
6	学校は補習、小テスト等を行い、学力向上に努めている。	2.94	2.78	2.98	3.08
7	学校は、進路に関する情報を提供し、進路意識を高め、進路実現に努めている。	2.94	2.93	2.92	3.06
8	授業は、ていねいでわかりやすい。	2.57	2.60	2.49	2.64
9	学校は、家庭学習を定着させるように、指導を行っている。	2.37	3.02	2.37	2.30
10	英語・数学等で習熟度別授業や少人数指導など、個に応じた学習を実施している。	2.93	2.85	2.93	2.93
11	学校行事には本校の特色やよさが表れている。	3.20	2.78	3.20	3.22
12	学校では防災訓練や安全に関する指導が行われている。	2.99	2.85	3.06	2.98
13	校内は、清掃が行き届き、学習環境が整っている。	2.71	2.57	2.65	3.00
14	地域・PTAと連携して、清掃ボランティアや清湧祭等、地域に貢献する活動が行われている。	3.17	2.74	3.04	3.27
15	部活動が活発に行われている。	3.40	3.04	3.38	3.29
16	私はまじめに授業に取り組んでいる。	3.02	2.87	3.04	3.10
17	私は楽しく学校に登校している。	3.12	2.34	3.04	3.46

平成24年度 学校評価

平成25年3月
兵庫県立明石清水高等学校

本校では、学校運営の改善と発展を目指し、毎年、学校評価を行い、その結果をホームページ等で公表している。

平成24年度は、まず、12月に全職員を対象に「職員アンケート」、保護者（PTA役員等）には「保護者アンケート」を、そして生徒全員には「生徒アンケート」を実施した。これらのアンケートの集約結果をもとに、「学校自己評価」を実施し、平成25年3月、第3回学校評議員会において評議員より意見聴取を行い、その意見を集約して「学校関係者評価」を実施した。

以下は、その学校評価の内容と、職員、保護者、生徒アンケート結果を集約したものである。

1 学校自己評価

領域	評価の観点	評価項目
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信
		学校評議員制度等を活用した学校運営の推進
		学校施設や教育活動の地域への開放
	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導體制の推進
		生徒の内面の理解を図る指導の工夫
		基本的な生活習慣の確立
	進路指導	進路指導體制の充実
		進路に対応した学力養成
		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上
	教職員の資質向上	実践的指導力の向上
		計画性を持った研修の実施
	危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定
		家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進

HPの更新は、定期的実施できた。ブログの更新は、定期的ではなく、更新回数を増やす必要がある。学年通信は、各学年定期的に発行できた。保護者のアンケート結果も良好であるが、一方で全ての保護者に確実に見ていただいているか疑問がある。

生徒指導に係るアンケート結果は、職員、保護者、生徒とも良好である。服装や遅刻指導の取組みに一定の成果があった。今後、通学指導を含め、継続的な取組が必要である。

進路指導は、補習が計画的に実施され、職員の意識も高まっている。一方で、保護者のアンケート結果が十分ではないことから、補習などの取組を機会ある毎にアピールする必要がある。

危機管理体制については、職員アンケートの結果が良くない。危機管理マニュアルの改訂も含めて危機管理体制を再検討する必要がある。

領域	評価の観点	評価項目
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	体験的・問題解決的な学習の展開
	基礎基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定
		基礎基本の定着
	総合的な学習の時間	教職員の協働体制の確立
	個に応じた学習指導の徹底	指導形態・評価方法の創意工夫
特別活動	自主的・実践的な活動の活性化	

生徒の実態あわせた取組は、補習の実施や課題の実施により、職員、保護者の評価が高くなっているが、生徒の評価は高いとは言えない。基礎基本の定着や学習習慣の確立など、中学校から不十分な分野については、丁寧に継続的に実践する必要がある。総合的な学習の時間については、学校としての指導計画が確立され、学校の特色化を含め、今後成果が期待できる。

領域	評価の観点	評価項目
課題教育	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上
	人権教育	人権教育推進体制への取り組み
	教育相談	教育相談体制の確立
	国際理解教育	交流事業の推進
	環境教育	よりよい環境の創造に向けた実践的態度の養成
	地域貢献事業	体験活動の推進と地域への貢献
	学校の個性化	特色ある教育課程の編成 外部講師の活用 文化・スポーツ活動の推進 コースの充実

「人と環境類型」の教育内容は、2年目であるが、ほぼ確立された。今後も継続実施し、生徒の多様な興味関心に応える内容を深める必要がある。特別非常勤講師等の活用は、決められた枠の中ではあるが、十分活用できている。地域貢献事業については、継続的に実施することで地域の評価も高く、全県の発表会でその成果を発表した。

「いじめ」に対する対応は、県の方針に基づき、アンケートの実施、面談、情報共有等、きめ細やかに対応できた。今後も教育相談をさらに機能させ、「安心安全な学校づくり」を行う。

2 学校関係者評価

(主な意見)

特色教育について、「人と環境類型」の活動は評価できる。その活動の場になかった者に上手く広報することが大切である。他校のホームページやブログのほうが、上手伝えている、今後活用して欲しい。

アンケートでは、保護者の評価が、生徒評価よりも低い。親は、煽てほめることも必要である。

保護者の評価が低下している項目がある。学校活動を十分理解できていない保護者がいる、学校活動の保護者への伝え方に課題がある。

生徒指導の成果か、学校外で挨拶する生徒が増えている。

高校選びをする中学生とその保護者が、高校に何を求めているかを、もう少し分析するとよい。これにより学校改善の方策が明確になる。

指定校推薦の大学、また塾に頼らない学習指導など、具体的なメリットを有効に保護者、中学生に伝えるとよい。

まずは、地域、近隣の中学校への効果的な広報が必要。

広報では、ミニコミ誌等も有効ではないか。

防災の点では、地域は、平日の昼間に動ける大人を必要としている。この点を、学校の特色化に生かせないか。

地域も良いが、一方で異文化交流の方策も有効でないか。

学校の特色化、生徒指導、学習活動等、学校の取組には概ね良い評価をいただいた。しかし、その活動をいかに地域や保護者、中学校に伝えるかについての広報活動は、十分とは言えず、この点は、具体的な改善を求められている。